
貴方が

紗渚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
貴方が

【Nコード】
N9545K

【作者名】
紗渚

【あらすじ】
人が死ぬとき
誰かが1人必ず後悔する

いつものように
ダラダラと玄関をでて

帰ってこなかった

帰って来たのは
冷たくなつた貴方で

新ちゃんと神楽ちゃんは
貴方に抱きついて
泣いていたわ

土方さんは
いつものように煙草を吸っていたけど
どこか、悔しそうで

近藤さんは
涙目で笑って
またな、
って言っていたわ

沖田さんは
アンタずりいや

そう、呟いてた

私は…逃げた

認めたくなかった

貴方がもうこの世界のどこにもいないことを

ねえ、銀さん？

神楽ちゃん

毎日、貴方の卵かけご飯までつくってるのよ？

新ちゃんは

毎週欠かさずに貴方の大好きな雑誌を買ってるの

— 買わないと銀さんに

— 怒られちゃいますから

そう、私に笑いかけるわ

ねえ、銀さん？

本当はまたひょっこり
帰ってくるんじゃないの？

あの時、私
貸したままだわ

— 銀さん？どこか行くんですか？

— ん、ちょっくら行ってくるわ

— でも、雨降ってますよ？

— マジでか。ヤベ、傘壊れてるんだった

— ふふ、私の傘。貸してあげますよ

— …… いいのか？

— ええ、必ず返してくださいね？

— …… ああ、

『必ず、返すよ』

いつになったら返してくれるんですか？
いつになったら帰ってくるんですか？

いつかだったか

貴方が近藤さんと勝負した河原の橋に来たの

その時、貴方の魂こゝろを知ったわ
優しくて、不器用で

自分の武士道を持った貴方

貴方のこと

もっと知りたいと思った

橋から見える
朱色の夕焼け

— なあ、お妙

— なんですか？

— 帰ったら…さ

— ハイ

— いや、なんでもねえ

— なんですか、ふふ

— 笑うなよ。じゃあな

— 行つてらっしゃい

— ああ

帰ってきたら

何を言おうとしたの？

いつの間にか

私の頬には涙が流れていた

貴方は

もういない

分かりたくなくても

分かってしまうの

貴方がいなくなつて

この街は色がなくなつた

貴方は白

何色にも染まるようで

何色にでも勝つてしまう

――お妙は桃色だな

――なら銀さんは白ですね

貴方が

貴方が

銀さんが好きなんです

気づいてしまったの

だから、
いけないで

いなくならないで

傘なんていらなから
いつものように

『たでーま
』

そう言って下さい

「銀さん」

私に

『おかえりなさい』
そう、

言わせて下さい

それだけで
いいから

.

.

— 銀さんがいなくなっ
たら新ちゃんも神楽ちゃんも悲しみますから

— お前は？

— え…？

—お前は、悲しんでくれねえの？

—私は…

.

悲しいに決まってるわ

【END】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9545k/>

貴方が

2010年10月9日06時03分発行